

NGO 外務省定期協議会 2010 年度連携推進委員会の振り返り

連携推進委員会 委員 岡島克樹
(関西 NGO 協議会 提言専門委員)

<2010 年度全体の振り返り>

連携推進委員会にとって、2010 年は意義ある変化によって特徴づけられる 1 年であったと評価している。

DAC ピアレビューや政権交代を契機として、ODA のあり方全般について検討できたことはもとより、政務三役による出席が慣例化したことや、日本 NGO 連携無償資金協力や NGO 事業補助金の運用の簡素化等が検討され、実際に改善につながる決定がなされたことは NGO のアドボカシーや事業の現場にとって肯定的なインパクトをもたらすものだと思います。

<今後の課題>

一方、以下の点は、時間的・時期的な制約もあり、なお十分な議論の積み重ねがあったとは言い難く、今後も継続して検討していく必要がある。

【NGO 連携政策】

NGO 連携政策ペーパーの策定：『開かれた国益の増進』の発表以降、そこに記された各論のうちのいくつか、すなわち、PDCA サイクルの強化や「見える化」推進、人道支援、ボランティアにおいて政策ペーパーの発表およびドラフティングが進められ、より詳細な議論が展開されている。今後、たとえば 10 年間のあいだに、どのような原則・基本認識に基づき、いかなる重点分野において外務省・NGO 間連携を進めていくのか、より詳細な記述を行うことが望ましい。

NGO 連携政策と予算とのリンク：連携にかかる政策ペーパーを策定する際に重要なこととして、予算的裏付けのある記述にするために、NGO に関連する予算の数値目標化を行うことが求められよう（DAC による対日援助審査によれば、NGO への支援・NGO を通じた支援の予算が全体の 3%に留まっている（DAC 平均は 7%））。

【連携スキーム】

上述のように、2010 年度の前後、日本 NGO 連携無償資金協力の予算が増額されたり、手続きが簡素化されたりするなど、相当の改善が見られたが、なお以下のスキームにお

ける NGO 連携の推進については、今後、さらに検討を重ねていく必要がある。

草の根・人間の安全保障無償資金協力

包括的支援スキーム（とくに「アフガン市民ファンド」）

JICA ボランティア

【地方展開】

2010 年度の連携推進委員会では、市民の途上国 이슈に対する共感、ODA の動向に対する関心をどのように地域に根差したかたちで掘り起こしていくのか、その際にどのような課題と対策があるのか、包括的に議論できなかった。2011 年度では、地方の NGO との連携を具体的にどのように行うのかを検討する必要がある。

以上